

協会に事務局を置く団体

神奈川県消化器がん検診機関 一次検診連絡協議会

本協議会は老人保健法施行に伴い昭和57年2月、日本胃
集団検診学会（現：日本消化器がん検診学会）関東甲信越
地方会実施機関部会において各県単位の「協議の場」を設
置する申し合せにより発足し、29年が経過した。

発足以来、県内における老人保健法に基づく胃がんの住
民検診を行う一次検診実施機関の精度管理の向上、行政、
医師会をはじめとする関係機関との連携協力を図り、共通
の諸問題の研究、技術の向上を目指して討議を行い、胃が
ん検診の充実、発展を図ってきた。当協会は発足当初より
事務局を引き受けている。

1. 協議会の開催

- (1) 第72回協議会 平成23年6月28日（火）
- (2) 第73回協議会 平成24年1月27日（金）

2. 幹事会の開催

- (1) 第91回幹事会 平成23年6月14日（火）
- (2) 第92回幹事会 平成23年12月13日（火）

3. 研修会

日 時：平成24年1月27日（金）
 テーマ：「新・胃X線撮影法ガイドライン改定版について」
 講 師：神奈川県予防医学協会 見本 真一
 テーマ：「症例提示」
 講 師：本協議会会長 今村 清子 先生
 テーマ：「胃癌の治療：最新の治療と展望」
 講 師：本協議会副会長 小林 理 先生

4. 技術部会

- (1) 第1回 平成23年5月18日（水）
- (2) 第2回 平成23年8月24日（水）
- (3) 第3回 平成23年11月16日（水）
- (4) 第4回 平成24年2月15日（水）

5. 講習会（がん検診X線撮影従事者講習）

日 時：平成23年11月11日（金）
 主 催：神奈川県 ＊共催機関として協力

神奈川県消化器がん検診機関 一次検診連絡協議会名簿

| | | |
|--------------------------|--------|-------------|
| 横浜市立市民病院がん検診センター | 会 長 | 今村 清子 |
| 川崎市立井田病院がんセンター | 副 会 長 | 小林 理 |
| (財)逗葉地域医療センター | 検診担当部長 | 石山 暁 |
| (医)松英会 | 施 設 長 | 河村 攻 |
| (財)京浜保健衛生協会 | 理 事 長 | 寺門 運雄 |
| (医)倉田会 メディカルサポートクリニック | 理 事 長 | 矢作 淳 |
| 神奈川県厚生農業協同組合連合会 保健福祉センター | 院 長 | 宗像 寛 |
| (財)神奈川県労働衛生福祉協会 | センター長 | 中安 邦夫 |
| (公財)神奈川県結核予防会 | 会 長 | 西平 浩一 |
| (公財)神奈川県予防医学協会 | 専務理事 | 磯村 共庸 |
| 厚木市立病院 | 理 事 長 | 土屋 尚 |
| (医)社団相和会産業健診事業部 | 病 院 長 | 山本 裕康 |
| (医)藤順会藤沢総合健診センター | 理 事 長 | 土屋 敦 |
| | 理 事 長 | 石井 敏和 |
| 日本消化器がん検診学会 | | 今村 清子 |
| 神奈川県保健福祉局保健医療部がん対策課 | 課 長 | 長岡 正 |
| 神奈川県医師会 | 理 事 | 石井 出 |
| 神奈川県医師会 | 理 事 | 羽鳥 裕 |
| | | 平成24年8月1日現在 |
| | | (事務局 新保 文樹) |

神奈川消化器内視鏡技師研究会

本研究会は、消化器内視鏡技師、その仕事に携わる人々
を対象に、お互いの知識・技術の向上を図る目的で設立さ
れ活動を行っている。

今年度は、横須賀共済病院 内視鏡科部長 鈴木秀明先
生に世話人をお願いし、下記の通り行われた。

第31回神奈川消化器内視鏡技師研究会

日 時 平成23年5月29日（日）
 会 場 (財)横浜市教育会館
 世 話 人 横須賀共済病院
 内視鏡科 鈴木 秀明先生
 技師世話人 石渡 美和
 内 容

消化器内視鏡機器取り扱い講習会
 一般演題 4題
 特別講演 NBIを用いた消化管腫瘍の診断
 パネルディスカッション
 内視鏡室における身近なトラブル回避術
 入 場 者 610名

「特別講演」では、横浜市大市民総合医療センター内視
鏡部岡 裕之先生に、NBIを用いた診断の実際について講
義をしていただいた。NBIの画像と通常の画像の違い、
NBIでの限界等を多くの画像を交え分かりやすくお話して
いただいた。

パネルディスカッションでは、日常業務で起こる身近なト
ラブルの回避術について各施設の取り組みを紹介していた
だき、各施設のリスクマネジメントに即役立つもので
大変参考になる内容であった。

顧 問（五十音順）

| | |
|-------|---------------|
| 青木 誠孝 | 青木医院 |
| 比企 能樹 | 北里大学病院名誉教授 |
| 西元時克禮 | 北里大学病院名誉教授 |
| 勝又 伴栄 | 北里大学病院 |
| 藤田 力也 | 昭和大学藤が丘病院名誉教授 |
| 高橋 寛 | 昭和大学藤が丘病院 |
| 遠藤 豊 | 昭和大学藤が丘病院 |
| 峯 徹哉 | 東海大学病院 |
| 山川 達郎 | 帝京大学溝口病院 |
| 伊東 文生 | 聖マリアンナ医科大学病院 |
| 安田 宏 | 聖マリアンナ医科大学病院 |
| 生沢 啓芳 | あいクリニック |
| 南 康平 | 丹羽病院 |

役 員

| | |
|-------|-----------------------|
| 青地 広美 | 横浜市立大学医学部附属市民総合医療センター |
| 片野早江子 | 聖マリアンナ医科大学病院 |
| 佐藤 和夫 | 神奈川県労働福祉協会 |
| 佐伯 美奈 | 聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院 |
| 鈴木 瑞穂 | 松島クリニック |
| 瀬戸 道雄 | 青木医院 |
| 谷合 幸乃 | 横浜市こども青年局 |
| 高木ちなつ | 藤沢湘南台病院 |
| 矢崎りり子 | 横浜市民病院 |
| 納所けい子 | 神奈川県予防医学協会 |
| 花木由香里 | 村松内科胃腸科クリニック |
| 平井 弘子 | 東名厚木病院 |
| 藤田 賢一 | 帝京大学溝口病院 |
| 藤森 弘樹 | 昭和大学藤が丘病院 |
| 石渡 美和 | 横須賀共済病院 |
| 松橋 妙子 | はっとりファミリークリニック |
| 三浦 美保 | 北里大学東病院 |
| 武藤美枝子 | 東海大学病院 |
| 山本 松男 | 南大和病院 |

(事務局 納所 けい子)

子宮がん車検診実施検討会

子宮がん車検診検討会（以降：検討会）は、精度管理向上を目的とし昭和46年度に開会させました。

検診車による子宮がん検診は、昭和43年度から開始され、県下市町村から依頼事業として当協会が配車し、細胞診断と結果報告を担当している。

検討会は、検診に協力していただいている県内の北里大学・東海大学・横浜市立大学・聖マリアンナ医科大学・日本医科大学武蔵小杉病院・相模野病院の産婦人科の医師及び県立がんセンター婦人科腫瘍専門医師のグループで車検診のデータの検証と、発見症例の再検鏡や再検証・検討を実施し、精度管理の維持向上に役立てると共に、検診の実務上必要な情報交換を実施・検討しております。

また、この検討会にあわせて、県産科婦人科医会の代表医師に対し報告会を開催し報告しております。

細胞診判定法が平成21年4月より日母分類よりベセスシステム準拠日本産婦人科医会分類に改定された。

ベセスシステム分類に対応するため採取器具の変更を実施した。（綿棒からサーベックスブラシコンビ）

（事務局：稲葉 稔明）

神奈川県乳がん集団検診協力医療機関連絡会

県域の乳がん集団検診は昭和52年度から開始されています。昭和53年度以降は県が実施主体となっており、「神奈川県乳がん集団検診協議会」の技術指導のもとに神奈川県予防医学協会が委託を受け実施いたしました。

その後、昭和60年度に乳がん検診が老人保健法に変わり、実施主体が市町村に変わったのを契機に、神奈川県予防医学協会を事務局として「乳がん集団検診協力医療機関連絡会（現会長 福田護（聖マリアンナ医科大学乳腺・内分泌外科教授）が発足し、上記協議会を引き継ぎ、検診の実務が逐行されています。

同連絡会は「神奈川県生活習慣病検診管理指導協議会乳がん分科会（会長 福田護（同上）、事務局：神奈川県保健福祉局）」の指導のもと検診精度管理面の検討と、検診の円滑かつ効果的な運営を図るため設置運営されています。

また、同連絡会は年に1回全体の協議会を開催し、集団検診ならびに追跡調査の状況を報告し精度管理のチェックをすると共に、検診の実務上必要な情報交換を実施し、また厚生労働省の視触診の指針に基づく技術協力を各医療機関に要請しております。

そして追跡調査の結果は毎年連絡会の医療機関の代表が「日本乳癌検診学会」に報告し、全国における神奈川の検診実態把握と精度向上に努めています。

会 員（敬称略：順不同・平成24年8月1日現在）

会長 聖マリアンナ医科大学附属研究所プレスト&イ
メージング先端医療センター附属クリニック
院 長 福田 護

〈医療機関名〉

| | |
|-----------------|-------|
| 横浜市立大学医学部一般外科 | 利野 靖 |
| 横浜市立民総合医療センター外科 | 石川 孝 |
| 昭和大学藤が丘病院 | 松宮 彰彦 |
| 横浜南共済病院 | 松川 博史 |
| 日本医科大学付属第二病院 | 天神 敏博 |
| 聖マリアンナ医科大学病院 | 津川浩一郎 |
| 藤沢市民病院 | 仲野 明 |
| 藤沢湘南台病院 | 田村 功 |
| 茅ヶ崎市立病院 | 小林 一博 |
| 平塚共済病院 | 谷 和行 |
| 小田原市立病院 | 小山 隆史 |
| 山近記念総合病院 | 久保田光博 |
| 秦野赤十字病院 | 蓮尾 公篤 |
| 東海大学病院 | 徳田 裕 |
| 大和市立病院 | 竹下 利夫 |
| 東海大学大磯病院 | 島田 英雄 |
| 伊勢原協同病院 | 飯尾 宏 |
| 平塚市民病院 | 金井 歳男 |
| 海老名総合病院 | 内山喜一郎 |
| 東芝林間病院 | 竹中 晴幸 |
| 相模台病院 | 坂本いづみ |
| 湘南記念病院 | 土井 卓子 |
| 東名厚木病院 | 日野 浩司 |

（事務局：稲葉 稔明）

神奈川乳房画像研究会 神奈川乳房超音波画像研究会

本研究会は平成10年12月に発足し、マンモグラフィ・乳房超音波・乳房画像診断・病理診断に携る県下の診療放射線技師・臨床検査技師・医師とその検査を受ける立場である一般の方に至るまでを対象とし早期乳がん発見をするために画像診断力や精度管理の知識向上に役立つ情報の伝達や医療現場の情報など普及活動を行なっている。平成18年3月に発足した神奈川乳房超音波画像研究会も同様に広い範囲で活動を推進している。

代表世話人 加藤善廣
(川崎市立多摩病院)

平成23年度の活動状況

《第42回研究会・第19回超音波研究会》

開催日時：平成23年7月9日(土) 14:00~18:00
会場：鶴見大学会館 地下1階 メインホール

1. 「MRIによる乳腺画像診断」
聖マリアンナ医科大学B&Iセンター放射線科
嶋本裕先生
2. 「デジタルマンモグラフィの新しい臨床応用:CESM」
GEヘルスケア・ジャパン株式会社マーケティング本部
マーケティング企画部製品技術担当マネージャー
新井教郎先生
3. 「乳房超音波検査のコツとリンパ節の見方」
東京医科大学病院 画像診断部 河本敦夫先生
参加者：100名

《第43回研究会・第20回超音波研究会》

開催日時：平成23年11月27日(土) 13:00~17:00
会場：鶴見大学会館 地下1階 メインホール

1. 「乳腺の超音波診断
—良悪の鑑別が難しい場合はどうするか—」
聖マリアンナ医科大学病院
超音波センター長 辻本文雄先生
2. 「症例検討—画像と病理像の対比—」
埼玉県立がんセンター 病理部
部長 黒住昌史先生
3. 「ガラス線量計による乳腺線量測定の実況」
千代田テクノル 線量計測技術グループ
狩野好延先生
4. 「臨床画像評価」
神奈川乳房画像研究会世話人
参加者：102名

《第44回研究会・第21回超音波研究会》

開催日時：平成24年3月18日(日) 13:00~17:00
会場：鶴見大学会館 地下1階 メインホール

1. 「MammoDiagnost DRについて」
(株)フィリップスエレクトロニクスジャパン
ヘルスケア事業部 営業本部
モダリティスペシャリスト 坂口裕一先生
2. 「ShearWaveElastography技術を搭載した
超音波診断装置『Aixplorer』」
キャノンマーケティングジャパン(株)
医療機器営業本部 医療機器ニュープロダクト販売課
山津桂子先生
3. 「最新の乳癌診療の動向」
聖マリアンナ医科大学
乳腺内分泌外科教授 津川浩一郎先生
4. 「臨床画像評価」
神奈川乳房画像研究会世話人
参加者：58名

世話人会開催

平成23年4月11日 19:00~21:00
平成23年7月29日 19:00~21:00
平成23年10月25日 19:00~21:00
平成23年12月15日 19:00~21:00
平成24年3月2日 19:00~21:00

於：神奈川県予防医学協会
(事務局 見本喜久子 金子祐子)

ピンクリボンかながわ

「ピンクリボンかながわ」は、乳がんの早期発見・早期治療をめざして、NPO法人乳房健康研究会と共に、乳がん検診の受診率向上と乳がんについての知識の普及・啓発を目的として、平成18年度から取り組み6年目となる。

神奈川県から貸与されたマンモグラフィ検診車の活用を図り、行政・企業との連携が拡大し活発な活動を展開してきた。

各団体との連携による主な活動としては、マンモグラフィ検診車の展示や、ピンクリボンブースで乳房模型を使い、しこりの触診体験や自己触診方法を説明している。

また、小規模の催しには、乳房模型の貸出しや自己触診方法が載ったリーフレットの提供による活動支援も行っている。

啓発活動のネットワークも拡大し、青葉区区民利用施設協会では、啓発リーダー研修を行い、リーダーが各地区へとピンクリボンの輪を広げている。

また、岩崎学園情報科学専門学校では、年2回の乳がん啓発講習会を実施し、生徒達への理解を深めている。

全国健康保険協会神奈川支部(協会けんぽ)との連携も自治体の協力とともに拡大している。

大きなショッピングセンターでの活動は日頃関心のない方達へも幅広く伝わっている。

このような新たなネットワークにより、様々な分野の方達とともに草の根運動として連携を強化している。

平成23年度は、県内市町村や企業等のイベントや講習会、研修会へ延べ31団体51日間、協力参加した。

本会としての主活動は、9月23日に神奈川県、横浜市をはじめ関係団体と連携したイベントを、横浜公園、日本大通を中心に行い、更に、横浜マリントワー、象の鼻パークのスクリーンパネルをピンク色のライトアップを行った。

役員

1. 代表 野末 悦子
(乳房健康研究会・コスモス女性クリニック)
2. アドバイザー 青野 智子
3. 監事 2名 吉泉 英紀(横浜市水道局)
高木富美子(乳房健康研究会)
4. 事務局長 栗原 博(神奈川県予防医学協会)
事務局員 7名

ボランティア登録90名

(協会職員・協会OB・外部応援者等)
(事務局 野口 正枝)

神奈川県健康管理機関協議会

本協議会は、県内において企業等の健康管理支援業務を行う企業外健康管理機関が、より質の高いサービスを提供するため、健康管理全般に関する支援として、精度の向上、適正な事業の運営等、共通の諸問題を協議検討すると共に労働衛生行政へも積極的に協力していくことを目的として活動している。平成23年度の会員機関は15機関で年2回運営面の適正化と質的向上に関する事項の協議の場として、継続的に協議会を開催している。

平成23年度活動状況

第1回協議会（平成23年8月29日）

1. 神奈川労働局からの連絡事項
 - ・ 神奈川労働局からの連絡事項
 - ・ 平成23年度神奈川県下における労働衛生の現状
 - ・ 平成23年度労働衛生行政の重点
 - ・ 労働政策審議会建議「今後の職場における安全衛生対策について」
 - ・ 労働衛生関係法令の改正等について

2. 講演

テーマ：「健診機関の危機管理 暴言・暴力対策」
－病院に学ぶ予防と対策－

講師：北里大学医学部

公衆衛生学 講師 和田 耕治 先生

- (1) 医療従事者の健康と安全を守るための取り組み
- (2) 医療機関で起こりうる暴力（種類）
- (3) 様々な暴力の現状（データ）
- (4) 効果的な予防、事例への対応はどうしたら良いか
- (5) 事後の対応はどうしたら良いか

3. 情報交換

- ・ 節電による健診事業への影響
- ・ 震災等緊急時に対する事前準備と対応
- ・ 「職場におけるメンタルヘルス対策の新たな枠組み」を踏まえた事業への取り組み状況

第2回協議会（平成24年2月24日）

1. 神奈川労働局からの連絡事項
 - ・ メンタルヘルス対策の充実強化
 - ・ 型式検定及び譲渡の対象となる器具の追加
 - ・ 受動喫煙防止対策の充実強化
 - ・ 労働衛生関係法令の改正等について

2. 講演

テーマ：「協会けんぽの現状と今後」

講師：全国健康保険協会 神奈川支部

企画総務部長 吉原 昇様

保健グループ リーダー 滝川 樹弘様

- (1) 協会けんぽにおける健康保険給付の種類、健康診断と保健指導
- (2) 平成24年度健康保険料率の変更など協会けんぽの概要説明
- (3) 平成23年度の健診、保健指導の実績報告
- (4) 平成23年度神奈川支部保健事業の実施状況、協会けんぽ他支部での取り組み事例
- (5) 平成24年度神奈川支部保健事業の基本方針

3. 情報交換

- ・ 産業医契約の現状と今後
- ・ 女性医師の要請増加への対応
- ・ 施設健診及び巡回検診車のデジタル化の現状

機関名

▲代表幹事 ●幹事

- ▲(財)神奈川県予防医学協会
- (財)神奈川県労働衛生福祉協会
- (財)京浜保健衛生協会
- (財)結核予防会 神奈川支部
- (財)全日本労働福祉協会
- (財)日本予防医学協会 東日本統括センター
- (財)労働衛生協会
- 独立行政法人 労働者健康福祉機構 関東労災病院 健康管理センター
- (財)労働科学研究所
- (医)社団 日健会 日健クリニック
- (医)社団 相和会 産業健診センター
- (社)衛生文化協会 城西病院
- (財)逗葉地域医療センター
- 神奈川県厚生農業協同組合連合会
- (医)社団 同友会

※平成24年3月31日現在

(事務局 雨宮 徹)

神奈川健康保持増進サービス機関等連絡会

神奈川健康保持増進サービス機関等連絡会は、神奈川県下で活動している中央労働災害防止協会認定（名簿登載機関）の健康保持増進サービス機関で組織され、神奈川労働局の指導の下に発足し自主的に運営されている。その目的としては、事業主の責務である労働者への健康づくり活動をより質の高いものにするべく、技術の向上、運営の適正化またサービスを提供することである。

生活習慣病及びメタボリックシンドロームについては、継続した適切な運動を行い、健全な食生活を維持し、ストレスをコントロールすることにより予防ができる。健康管理やメンタルヘルスケア等心身両面にわたる健康指導をトータルに取組むことにより、労働者の健康の保持増進活動が行える。

労働者の健康の保持増進には、労働者自らが自主的、自発的に取組むことが重要であるが、労働者の働く職場には労働者自身の力だけでは取り除くことができない健康障害要因、ストレス要因などが存在している。労働者の健康を保持増進していくためには、労働者の自助努力に加えて、事業者の行う継続的かつ計画的に心身両面にわたる積極的な健康管理が重要である。

労働者健康保持増進サービス機関等は、これら事業者が取組むべき健康増進活動の計画立案・実践を企業外から支援する機関であり、積極的に活用をしていただきたい。

〈加入機関〉

(財)神奈川県労働衛生福祉協会

(医社)こうかん会

(公財)神奈川県予防医学協会

平成24年4月1日現在

(事務局 北見 護)

肺疾患検討会

1982年（昭和56年）9月の本会発足以来、本年をもって30年目になった。この間、休会になったのは大雪に見舞われて交通麻痺を来たしたことを含めて3回しかない。呼吸器疾患に情熱を燃やす先生方のお陰で139回を迎えることができた。第100回の際に一応の区切りかとも考えたが、いつの間にか若い先生達と出席者が入れ替わっていて、これでやめては申し訳ないと考え直してそれ以後、もうすぐ150回に届こうとしている。

第139回 平成23年5月17日

横浜市立大学附属市民総合医療センター 呼吸器外科 乾教授 他3名

①硬化性血管腫、②孤立性腺維腫、③気管分岐異常、④Deep cellular fibrous histiocytoma with aneurysmal features、⑤肺動脈拡張症、⑥Paraganglioma、⑦弁性気管支胆管瘻

第140回 平成23年9月13日

藤沢市民病院 呼吸器外科 吉本先生

手術適応、術式に迷う4症例。①両側肺癌に対する術式と順序、②骨盤内肉腫の巨大肺転移の手術適応、③胸腺腫合併肺癌に対する胸腺の処理。一期的手術か二期的か？、④胸腺原発縦隔胸膜湿潤未分化癌の術式について

第141回 平成23年12月6日

横浜栄共済病院 胸部外科 原先生 他2名

縦隔腫瘍の各種。①気管支のう胞 外科的アプローチをどうするか。正面？側方？②Atypical Carcinoid、③胸腺癌、④のう胞性リンパ管腫（CTで認める）、⑤Thymic Squamous Carcinoma（心膜に癒着）、⑥Matured cystic teratoma

第142回 平成23年2月14日

横須賀共済病院呼吸器病センター 外科 諸星先生 他2名

①②Solitary fibrous tumorの2例、③心包に接した脂肪織炎（Panniculitis）④左上縦隔腫瘍（Malignant peripheral nerve sheath tumor of mediastinum）、⑤Adenocarcinoma（Micropapillary pattern）

以上、疾患としてまれな症例も多いが、手術を含んで治療に迷う症例も多く、胸部・呼吸器外科臨床の第一線の先生方が知力と腕の見せどころとして健闘しているのを毎回ではあるが本年度も目の当たりに見せて戴いた。

（事務局 井出 研）

日本作業環境測定協会神奈川支部

日本作業環境測定協会神奈川支部は、昭和56年7月、神奈川並びに山梨の両県に所在する（社）日本作業環境測定協会会員により設立。現在、支部の会員は、自社1、機関25、指定1、測定士41、その他13の計81会員である。

神奈川支部は設立以来、作業環境測定士の資質向上と測定技術の精度向上、測定機関の業務改善並びに会員相互の親ほくを目的として、種々の事業を展開してきた。

平成21年度は、作業環境測定推進大会を始めとして、各種の事業を行った。その主な内容は次の通りである。

会 議

（1）支部会議

- ①総会1回 ②理事会3回
- ③技術専門委員会8回 ④機関全体集会1回

（2）本部会議

- ①支部長会議（23.6.29）

事 業

I. 作業環境測定推進大会（23.9.13）

- ①最近の労働衛生行政の動向
神奈川労働局労働衛生課長 福島 路子氏
- ②作業環境測定時の安全衛生対策
菱重エステート 竹内猪佐夫氏
JFEテクノリサーチ 星野 健二氏
住友重機械エンバイロメント 佐藤 健二氏
神奈川県労働福祉協会 高野 広正氏
- ③保護具の正しい使い方（実技を含む）
重松製作所 安藤 真理氏

II. 技術研修会

- （1）第1回技術研修会（23.5.12）
～化学物質等に関する行政の動き～
早稲田大学理工学術院 教授 名古屋俊士氏
- （2）第2回技術研修会（24.2.10）
工場見学会：田中貴金属工業湘南工場
- （3）第3回技術研修会（24.3.9）
①最近の法令改正（衛生関係）について
神奈川労働局労働衛生専門官 前田比三典氏
- ②現行モデル様式のアンケート結果について
神奈川県予防医学協会 芦田 敏文氏
- ③新型活性炭管の性能について
ガステック 宮越 義則氏
- ④測定士に必要な放射線のイロハ
中災防労働検査センター 山田 憲一氏

理事・技術専門委員名簿

| | 理 事 | 技術専門委員 |
|-------|-------|-----------------|
| 支 部 長 | 佐藤 明 | 灰塚 正隆（オオスミ） |
| 副支部長 | 井澤 方宏 | 芦田 敏文（予防医学協会） |
| 〃 | 吉留 浩二 | 佐藤 研二（住友重機械） |
| 理 事 | 梅田 忠明 | 竹平 知義（労働衛生福祉協会） |
| 〃 | 仙石 久司 | 竹内猪佐夫（菱重エステート） |
| 〃 | | 岸 康博（元日産自動車） |
| 監 事 | 望月 明彦 | 望月 速人（山梨労働センター） |
| 〃 | 三井 浩史 | 星野 健二（JFEスチール） |
| 行 政 | 斎藤 晃彦 | 長久保 茂（神奈川労働局） |
| | | （事務局 芦田 敏文） |

神奈川県学校・腎疾患管理研究会

昭和50年に発足し37年目。各地区医師会・自治体・大学医学部・病院・学校・健診機関が相互に連携し地道な腎疾患対策を行い児童・生徒の健康に寄与すべく事業を展開している。

I 調査研究事業

1. 学校現場と腎疾患医療分野の連携を図るため、秦野市学校保健会にて講演と質疑を実施。

責任者 生駒 雅昭

(本会幹事・川崎市立多摩病院小児科部長)

日 程 平成23年5月19日(木)

会 場 秦野市保健福祉センター

講 演 腎疾患児の学校管理、指導について

参 加 秦野市学校医、薬剤師、養護教諭等

2. 各地区の判定委員会の現状と問題点の把握。

責任者 高橋 英彦

(本会幹事・こども医療センター 腎臓内科)

日 程 平成24年2月25日(土)

会 場 ワークピア横浜

協議事項 ・各地区現状報告

・学校腎臓病検診マニュアルの検討

参 加 14地区担当 9名

II 運営委員会

責任者 新村 文男

(本会会長・東海大学病院医学部小児科准教授)

日 程 平成23年5月27日(金)

会 場 松村ガーデンホール

参 加 10名

III 総会および研究会他

日 程 平成23年9月10日(土)

会 場 松村ガーデンホール

・役員会 14:00-

・総 会 15:00-

・定例研究会 15:30-

- ①テーマ 「小田原市学校検尿卒後検診「27年間のまとめ」」

講 師 ふじわら小児科 藤原 芳人 先生

②テーマ 「腎疾患の臨床と病理
-学校検尿を中心に-

講 師 横浜市立大学小児総合医療センター

原田 知典 先生

参加人数 34名

IV 医師部会研究会

日 程 平成24年2月25日(土) 15:00-

会 場 ワークピア横浜

- ①テーマ 「小児の腎機能検査の現状と問題点」

講 師 国立成育医療研究センター

腎臓・リウマチ膠原病科 亀井 宏一 先生

②テーマ 「「学校検尿のすべて」の改訂について
-学校検尿の成果と問題点-

講 師 北里研究所 メディカルセンター病院

小児科部長 飯高喜久雄 先生

参加人数 48名

V 知識普及活動

1. 研究会機関誌「腎」25・26合併号の発刊(2,000部)
2. ホームページ活用し、県下各地域の学校保健関係者に普及活動を行なう。

(URL <http://www.shouni-jin.jp/>)

(事務局 佐藤 光宣)

禁煙、分煙活動を推進する神奈川県会議

平成11年11月5日設立発足した本会は着実な活動を展開し、県内における禁煙・分煙に関する活動の指導的役割を果たしてきている。

協会は設立時より本会の事務局を担当している。

平成15年「健康増進法」において受動喫煙防止が謳われ、神奈川県では「かながわ健康プラン21」、「がんへの挑戦・10ヵ年戦略」によるタバコ対策につづき、「神奈川県公共施設における受動喫煙防止条例」が平成22年4月から施行された。本会も条例の効果的な運用に協力し積極的に活動を展開している。

23年度活動内容

I. 会議

(1) 総会 6月4日

(2) 理事会 6回

II. 事業

1. 講演 6月4日

2. 禁煙・防煙講演会、禁煙セミナー
委託事業として随時開催

地域、学校・職域、医療関係への講師派遣
105回

3. かながわ卒煙塾 講師・相談員協力

4. スモークフリーキャラバン出発激励会
9月17日

5. 神奈川県教育委員会との連携・協力

6. かながわ卒煙サポートネットワークへの協力
企業の受動喫煙対策への協力

7. 関連会議への協力・参加 5回

8. イベントへの参加

(1) 上永谷駅前「禁煙キャンペーン」8月1日

9. 団体等への要望など

兵庫県受動喫煙防止条例制定への意見書等2回

10. メーリングリスト(NL)の運営

11. ホームページの運営

役員(理事会)の構成(24年6月2日現在)

会 長 中山脩郎(神奈川県内科医学会名誉会長)

副会長 廣瀬好文(神奈川県立循環器呼吸器病センター所長)

〃 浅川章光(神奈川県歯科医師会副会長)

〃 加藤久幸(神奈川県薬剤師会副会長)

会計、監事、理事 35名(医師、歯科医師、薬剤師、看護師、マスコミ、産業、教育等)

(事務局 栗原 博)

スモークフリー推進かながわ基金

受動喫煙による健康への悪影響から県民の健康を守るための公共的空間における新たなルールとして、「神奈川県公共施設における受動喫煙防止条例」が制定され、平成22年4月1日より施行された。

受動喫煙防止を広く浸透させ、自らの意思で受動喫煙を避けることができる環境の整備を促進するためには、民間と行政が、相互に、理解と協力のもとに対策を推進することが重要であり、これを継続的、安定的に実施するため、県民、法人、全国の賛同者からの寄付金を原資とした「スモークフリー推進かながわ基金」が設立された。

これは、民間と行政の協働による受動喫煙防止対策の一層の推進と、「スモークフリー」を神奈川県から広く発信し、社会全体のルールとして定着するための各種事業を実施することを目的としている。

その呼びかけ人の総意により、当協会がその事務局を引き受けている。

(スモークフリーとは“煙から開放されて自由になる”という意味です)

設立呼びかけ人

- 社団法人神奈川県医師会
- 社団法人神奈川県歯科医師会
- 社団法人神奈川県薬剤師会
- 社団法人神奈川県病院協会
- 社団法人神奈川県看護協会
- 神奈川県

23年度活動内容

事業協力

1. 受動喫煙防止県民フォーラム
「たばこががん予防～子どもたちを守るために」
11月13日
2. 受動喫煙防止ポスター表彰式 11月13日

役員（運営委員）の構成（平成23年9月現在）

- 委員長 澤井博司（神奈川県医師会副会長）
 - 委員 浅川章光（神奈川県歯科医師会副会長）
 - 〃 嶋元（神奈川県薬剤師会副会長）
 - 〃 吉田勝明（神奈川県病院協会副会長）
 - 〃 天野三紀子（神奈川県看護協会常務理事）
 - 〃 中澤明紀（神奈川県保健福祉局保健医療部長）
- （事務局 栗原 博）

神奈川学校保健研究会

県内の養護教諭ら、学校保健関係者が自主的に研修する場として昭和43年に発足。以来、毎月1回の月例会、夏期講習会を実施している。

1、月例会

- 期日・テーマ・講師・参加人数
- 4月16日 「「育自と色育」一カラーの効果を取り入れて子どもたちの生きる力を育てる」志田悦子・色彩教育研究所（e_color）・10人
 - 5月21日 「学校事故の判例に見る救急措置の危機管理について—学校スポーツ事故の法的危機管理—」菅原哲朗・弁護士・21人
 - 6月18日 「東日本大震災で被災した子どもの心のケアについて」山内享子・モンテッソーリ湘南子どもの家代表・10人
 - 7月23日 「子どもたちのソーシャルスキルの現状と学校のあり方」高橋三善・横浜市スクールスーパーバイザー、藤沢市スクールソーシャルワーカー・19人
 - 9月10日 「てんかんと発達障害」久場川哲二・松戸クリニック院長・12人
 - 10月15日 「タッピングタッチ—心と体にとどくケア」中田利恵・タッピングタッチインストラクター・26人
 - 11月19日 「保健室でのコミュニケーション」斉藤智子・コンフィダントコーチ・17人
 - 12月3日 「ISドリームワーク～新たな夢へのアプローチ」村上裕偉・セラピスト・16人
 - 1月21日 「食育・栄養、基礎から最新情報まで」田中恭子・協会管理栄養士・14人
 - 2月25日 「神奈川県学校・腎疾患管理研究会医師部会との合同開催」亀井宏一・国立成育医療研究センター腎臓リウマチ膠原病科、飯高喜久雄・北里研究所メディカルセンター病院小児科部長・20人
 - 3月26日 施設見学会・日本大学生物資源科学部博物館・4人

2、夏期講習会

- 日時：平成23年8月8日～10日
 テーマ：「自己理解と他者理解の心とこころの響きを求めて」～支援・導入の方法を広げる～
 参加者数（延べ）：237人
- 8日 「保健室でのカウンセリング」菅野純・早稲田大学人間科学学術院教授、「みつめよう子どものこころ」宮田雄吾・横浜カメラアホスピタル院長
 - 9日 「ケースメソッド」竹鼻ゆかり・東京学芸大学芸術スポーツ科学系養護教育講座准教授
 - 10日 「くすり教育の進め方」志賀信之、大内良宏・くすりの適正使用協議会くすり教育アドバイザー、「保健室でできる動作法」鈴木芳宏・動作法おおみや主宰

会員状況

小学校8人、中学校10人、高校・短大8人、特別支援学校・保育園・ボランティア1人、その他14人、計41人
 役員（順不同、敬称略、平成24年5月31日現在）

- | | |
|------|----------------------|
| 顧問 | 高田 和子 |
| 名誉会長 | 山口 京子 |
| 会長 | 鈴木 晴美（前・横浜市立浦島小学校） |
| 副会長 | 藤沢 恵子（横浜市立新鶴見小学校） |
| 幹事 | 長 佐藤まゆみ（神奈川県立川崎高等学校） |
| | 木村千恵子（川崎市立千代ヶ丘小学校） |
| 監事 | 平山 京子（北鎌倉女子学園） |
| | 菊池 幸江（川崎市立南河原中学校） |
| | 後藤 和泉（秦野市立本町中学校） |
| | 坂井 悦子（横浜市立藤の木小学校） |
| | 中川 優子（藤沢市立藤ヶ丘中学校） |
| | 工平 きん（横浜市立勝田小学校） |
- （事務局 船崎 隆文）